

第 69 回 令和 7 年 8 月 2 5 日 (月)

「最近本当に涙腺が緩くなった。」

私は映画館で観る映画が大好きで、特に予告編が流れている時間帯が最高です。(本編ではハズレでガッカリすることもあります。)

基本的に悲しい映画はあまり観に行きません。動物が好きなので犬が死んでしまう映画は絶対観に行きません。

お涙頂戴の映画を見に行かない割に、最近映画で泣かされることが多くなりました。ちょっと前の「スラムダンク」では懐かしさにオープニングに一人で泣いてしまいました。最近では東京 M E R では泣きっぱなしでした。「ここでこの展開が来る」とわかっているのですが、がんばっている仲間で喜ぶシーンに基本的に弱いので、グズグズでした。

私は悲しいときにはあまり涙が出ないのですが、うれしいときには涙腺が緩みがちです。若いころ、バスケの指導者 4 年目くらいに初めて県大会に出たときは涙が止まりませんでした。アキレス腱断裂の部員が復帰は不可能だといわれていた時期にリハビリを頑張って、引退試合にシュートを決めた時には試合途中なのに号泣でした。

年齢を重ねて、泣くのを我慢することができなくなってきました。脳のコントロールが衰えてきているのかなとも思いますが、感動することが多くなったと考えれば別に悪いことでもないかなと思います。

N H K スペシャルの「5 月の 1 4 日間」というドキュメンタリーは涙が止まりませんでした。(死刑囚の話です。) 実話なのですが本当に信じられない、信じたくない話でした。イギリスの B B C の制作だったと思いますが、こんな事が本当に起きるのかと怒りを感じました。

いまはどこを探しても見つかりません。もし映像など残っていたら教えてほしい作品です。できるだけ多くの若い人に見てほしいです。

ゲームをクリアしたり、ショート動画を見たりすることは楽しいかもしれませんが心が震えることはありません。心は動かさないとどんどん固くなります。新しい刺激に対して無反応になっていきます。

定期的に涙を流すような感動をすることは大事だと思います。